

ケアセンターけやき

症 例 概 要	利用者氏名	男性 要介護
	利用期間	2024年9月～ 12月
	既往歴	脳梗塞、高尿酸血症、高脂血症、アルツハイマー型認知症、糖尿病、心不全、心房細動
	経 過	2024年4月左前頭葉の皮質梗塞を発症。急性期治療後、竹川病院（健育会グループ）へ、リハビリ目的にて転院となるが、尿路感染症、心不全の増悪、肺水腫でリハビリがすすまず。車椅子が主となり移乗動作は軽介助となったが、臥床時間の延長で覚醒低下がみられた。食事量が減少し点滴が必要な状態であり、医師から終末期の話をされる。ご家族は12月に、別荘のある熱川に移住を予定しており、一緒に連れて行き熱川の施設に入居させたいと考えていたが回復期での退院期限が迫る。2024年9月中旬ケアセンターけやきグループホームに入所となる。

内 容

退院サマリーの情報では、ST評価では全粥程度の食事は摂取可とのことだったが、残存歯が少なく粒があると吐き出してしまうため、ミキサー食を提供。以前よりかなり偏食があるとのこと、病状が安定しても経口摂取量が少なく点滴を行っていた。認知機能低下、高次脳機能障害があり、意欲・発動性低下、記憶の定着が困難で、帰宅願望があり車椅子自走する様子がみられるため、他のことで気をそらすなどの対応をしていたとのことだった。

入所後は、偏食もあるが、食卓に着いても車椅子を自走し食堂と居室間を行き来するなど、食事に集中することが難しく、食卓に着いてもうつむいてばかりで食事・水分がほとんど摂れず、点滴を行っていた。

ご本人、ご家族の願いである「12月に家族みんなで熱川へ引っ越したい」が叶えられるよう「食事摂取量を増やし体調を整えることが出来る」を目標とし、支援を行った。

まずは、危険と思われる車椅子自走の単独行動を止めず、本人の気持ちに向くまま行動できるよう見守りを行った。それにより、気持ちが安定していき、頻繁に聞かれた「家族に電話をしたい」という訴えがなくなっていった。気持ちが安定してくると、食卓に向かうことができるようになり、主食のみだが摂取するようになった。洗濯物を畳んでタンスにしまい、食後は車椅子自走しながら自分で下膳、飲み終えたジュースの紙パックをゴミ箱まで捨てに行ったりと、自分で考えて行動する様子が見られようになり、活動量が増えると、徐々に副食も摂取可能となり、入所して1か月後には点滴中止となった。10月末、家族より「元気になるためにリハビリを頑張るという、目標を持った生活を送って欲しい。」と希望あり、通所リハ

ビリを開始。全身運動と立位保持運動を中心に行われ、耐久性を高めていった。入所当初は、夜間に何度も覚醒されていたが、体を動かすことで日中の生活リズムが整い、よく眠れるようになった。

ライフケアガーデン熱川（健育会グループ）に入所を検討していたが、東京から熱川までの移動は負担がかかるため、主治医である竹川病院（健育会グループ）より、まずは熱川温泉病院（健育会グループ）に入院して体調を整える必要があると話があり。12月中旬けやきを退所され、ご家族と共に熱川温泉病院へ入院となった。

自分の意思で動くことを大切にすることで生活意欲が向上し食事が摂れるようになり、リハビリにも励むようになりました。ご本人・ご家族の願いである、みんなで熱川に引っ越すことが可能となったのは、キラキラ介護賞に値するとし推薦させていただきます。